

(1) 次の各文中の□部の語について、助動詞はその意味を答えよ。
また、助動詞でないものには×をつけよ。
(2) 各文を現代語訳せよ。

① 死に^{×過去}し子、顔よかりき。

死んだ子は、顔がよかった。

② 心なき身にもあはれは知ら^{自発}れ^{詠嘆}けり

情趣を理解しない身にも、しみじみとした情趣は自然と感ずるのだなあ。

③ あたら夜の月と花とを同じくは心知れ^{存続}ら^{婉曲}む^人にみせばや

惜しい(程すばらしい)夜の月と花とを、同じくことなれば、情趣が分かってゐる人に見せたい。

④ 春立てば消ゆる氷の残りなく君が心は我に解け^{××}な[×]む[×]

春になることすっかり消える氷のように、残すことなく君の心は私に解けてほしい。

⑤ 古き塚はすかれ[×]て[×]田と[×]なり[×]ぬ。古き墓は耕されて田となった。

⑥ 堂の物の具を砕け^{完了}る^{断定}なり[×]けり。お堂の道具を砕いたのだよ。

⑦ やがてかけこもら^{反実仮想}ましか^{反実仮想}ば、口惜しから^{反実仮想}まし[×]。すぐには入って鍵をかけたならば、残念だった。だらうのに。

⑧ 女のえ得^{不可能}まじかり^{完了}けるを、年を経てよばふ。結婚できそうもなかった女を、年月をかけて求婚する。

⑨ 主を見^{完了}たら^{完了}ば、告げよ。主を見たならば、告げよ。

⑩ 女房にも歌詠ま^{使役}せ^{使役}給ふ。女房にも歌を詠ませむさる。

夏補習 (助動詞特講) ①

ベースII『古典文法10題ドリル』 + α

● p32 助動詞1 「き」「けり」

補足 「けり」が詠嘆になる時について

和歌・会話文中の「けり」「なりけり」の「けり」

テキスト掲載問題より

▼助動詞「けり」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

9 住みける所を名にて「竜門の聖」とぞいひける。
「竜門の聖」と言っ(た)。

10 人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香に匂ひける。花が昔の香りに香っていることよ。

(脱線)係り結びを含む一節の訳し方

(例) 雨^①は^②降^③る。 (例) 雨^①は^②降^③る。か。

① ケス ② モトス ③ 補うが ④ 文末に「か」

「詠」 雨が降る。 「詠」 雨が降るのか。

● p33 助動詞2 「ず」

補足 「ず」の活用表の中で、漢文では登場しない形は。

「ぬ」「ね」

テキスト掲載問題より

▼助動詞「ず」を適切な形に直して、空欄に入れなさい。

6 誰とこそ知らへぬ。

7 講師は、「思ひかけ」ぬ。

8 宮仕へしたまふべき際にはあらへず。

▼助動詞「ず」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

9 法師ばかり、うらやましくならぬものはあらじ。うらやましくなないもの

10 秋ならぬども、あやしかりけりと見ゆ。秋ではないが、

	ず	
ざ	ず	
ざり	ず	
の	ず	
ざる	ぬ	
ざれ	ぬ	
ざれ		し

右列は「ず」の下が、助動詞でなう時は使う。左列は「ず」の下が「ら」の時、助動詞である時に使う。

● p34 助動詞3 「つ」「ぬ」

補足 「にき」「にけり」「にたり」「に」の「に」は？ 完了ぬ

補足 「強意の用法は、下に推量系の助動詞」とあるが、「推量系の助動詞」をすべて挙げて。

テキスト掲載問題より

▼助動詞「ぬ」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

8 雨のいたく降りしかば、え参らずなりにき。

9 潮満ちぬ。風も吹きぬべし。

10 東へ行きなばはかなくなりなまし。

参上できなくなっ(て)しまった。
風もき(き)と吹く(た)らう。
東へ行った(ら)ば、き(き)と死んで(い)たらうに。

「助動詞一覽表」で確認してください。

補充

- 「ぬ」「ね」の識別 梓囲みの説明として適当なものを、左の語群からそれぞれ選べ。
- 1 眼に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、
- 2 山里は冬ぞ寂しさまさりける人目も草もかれぬと思へば
- 3 昔の直衣姿こそ忘れぬ。
- 4 具して率ておはしぬ。

a 打消の助動詞 b 完了の助動詞



補充

「て」の識別 梓囲みの説明として適当なものを、左の語群からそれぞれ選べ。

- 1 鬼はや一口に食ひてけり。
 - 2 し出ださむを待ちて寝ざらむも、わろかりなむ。
- a 完了の助動詞 b 接続助詞
- この下は助動詞以外 ↓ ↓ ↓ は接続助詞

● p35 助動詞4 「たり」「り」

テキスト掲載問題より

▼助動詞「り」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

- 9 血たれども、何とも思へず。何とも思へず。 *尊敬*
 - 10 卯月ついたち、詠める歌。 *詠みこする。*
- (of.)大納言、歌を詠まる。 ↓ この「れ」の識別を参照。

● p36 名作に親しむ 『方丈記』

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮ぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例なし。世の中にある人と栖と、またかくのごとし。たましきの都のうちに棟を並べ、鬘を争へる高き賤しき人の住ひは、世々を経て尽きせぬものなれど、これをまことかと尋ねれば、昔ありし家は稀なり。或は去年焼けて、今年作れり。或は大家ほろびて小家となる。住む人もこれに同じ。所も変らず、人も多かれど、いにしへ見し人は、*存続* 三十人が中にわづかにひとりふたりなり。朝に死に夕に生るるならひ、ただ水の泡にぞ似たり。 *存続* 知らず、生まれ死ぬる人いづかたより来りて、いづかたへか去る。また知らず、仮の宿り、誰がためにか心を悩まし、何によりてか目を喜ばしむる。その主と栖と無常を争ふさま、いはばあさがほの露に異ならず。或は露落ちて、花残れり。残るといへども、朝日に枯れぬ。或は花しぼみて、露なほ消えず。消えずといへども、夕を待つ事なし。

問 本文中の助動詞「き」「けり」「ず」「つ」「ぬ」「たり」「り」を○で囲み、右横に意味を書きなさい。

夏補習 (助動詞特講) ②

● p38 助動詞5 「る」「らる」「らるる」

補足 尊敬の現代語訳 「オノニナサル」はOK? X。

補足 「くれ給ふ」「くられ給ふ」の「れ」は...100%尊敬ではない。

例 春秋の行幸になむ、昔思ひ出でられ給ふこともまじりける。

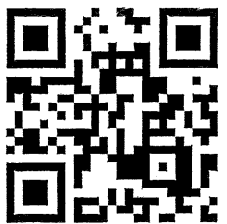
テキスト掲載問題より

▼助動詞「る」「らるる」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

- 7 この女子に教へらるるも、をかし。 (この女子に教へらるる) 受身
 - 8 大将、福原にこそ帰られけれ。 (大将、福原にこそ帰られけれ) 尊敬
 - 9 ふるさと限りなく思ひ出でらる。 (ふるさと限りなく思ひ出でらる) 自発
 - 10 胸ふたがりて、物なども見入られず。 (胸ふたがりて、物なども見入られず) 可能
- この女子に教へらるるも、をかし。 (この女子に教へらるる) 受身
- 大将、福原にこそ帰られけれ。 (大将、福原にこそ帰られけれ) 尊敬
- ふるさと限りなく思ひ出でらる。 (ふるさと限りなく思ひ出でらる) 自発
- 胸ふたがりて、物なども見入られず。 (胸ふたがりて、物なども見入られず) 可能
- 下 打消 注意して見る、ことばできない

補充 「る」「れ」の識別 梓困みの説明として適当なものを、左の語群からそれぞれ選べ。

- 1 今日 是 都 の み 思 ひ 遣 ら る。
- 2 み 吉 野 の 山 べ に 咲 け る 桜 花
- 3 秋 風 に 吹 か れ て 赤 し 鳥 の 脚
- 4 大 将 、 福 原 に こ そ 帰 ら れ け れ。
- 5 抜 か お と す る に 、 お ほ か た 抜 か れ ず。



a 完了の助動詞 b 自発の助動詞 c 可能の助動詞 d 受身の助動詞 e 尊敬の助動詞

● p39 助動詞6 「す」「さす」「しむ」

補足 「くれ給ふ」「くさせ給ふ」の「せ」は...ほとんど尊敬 (ただし、使役のこともある)

テキスト掲載問題より

▼助動詞「す」「さす」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

- 7 例のごとく、隨身にうたはせ給ふ。 (例のごとく、隨身にうたはせ給ふ) 使役
 - 8 人をやりつつ求めさせ給ふ。 (人をやりつつ求めさせ給ふ) 尊敬
 - 9 上も宮も、その歌をば、いと興せさせ給ふ。 (上も宮も、その歌をば、いと興せさせ給ふ) 使役
 - 10 妻の姫にあづけて養はせ給ふ。 (妻の姫にあづけて養はせ給ふ) 使役
- うたはせ給ふ
- 探さるが
- おもしうなり
- ひさる

補充 次の文の空欄に、助動詞の「る」「らる」「す」「さす」のいずれかを、適当な活用形に直して入れよ。

①おはすに、御覧じて、いみじう驚か(せ)たまふ。(上 天皇)

補充 次の文に訓点を施せ。

使ム人取し虫置酒中。

二重尊敬

● p40 名作に親しむ『枕草子』ものづくし (問) 助動詞を〇で囲み、右横に意味を記せ。

心ときめきするもの

使役

存続

雀の子飼。見遊ばす所の前わたる。良き薫物たきてひとり臥したる。唐鏡のすこし暗き

見たる。

使役

存続

存続

存続

よき男の車とどめて案内し問はせたる。頭洗ひ化粧じて、香ばしう染みたる衣など着たる。

ことに見る人なき所にて、心の内はなほいとをかし。待つ人などのある夜、雨の音、風の吹きゆるがすも、ふとおどろかる。

自発

ありがたきもの

受身

受身

打消

舅にほめらるる婿。また、姑に思はるる嫁の君。毛のよく抜くるしるがねの毛抜。主そしらぬ従者。

めでたきもの

断定

博士の才あるは、いとめでたしと言ふもおろかなり。顔にくげに、いと下臈なれど、やんごとなき

当然

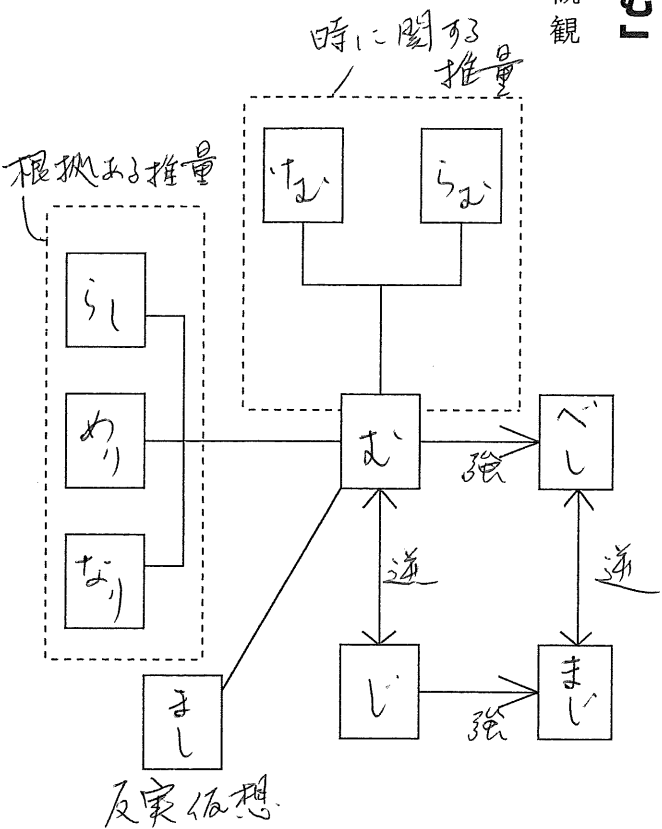
尊敬

御前に近付き参り、さきことなど問はせ給ひて、御書の師にてさぶらふは、うらやましくめでたく

こそおぼゆれ。

● p42 助動詞「む」

補足 推量グループ概観



補足 文中の「む」は仮定か婉曲、文末の「む」「べし」の意味は、決めにくいもの有り

テキスト掲載問題より

▼助動詞「む」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

8 双六は、「(自分が)勝たむ」と思ひて打つべからず。勝と

適当でも勧誘でもとんまう。

9 ほととぎすの婉曲か来鳴か。いつ来て鳴くのたうか。

10 「これに白からむ」ところ入れて持て来。」白い所(婉曲の「む」は訳不要)

5 「とくこそ試みさせたまはめ。」

夏補習 (助動詞特講) ③

● p43 助動詞 8 「むず(んず)」「じ」

補足 「むず」は切りすぎ注意。

補足 「よもゝじ」の現代語訳は。よさあゝないたゝう。

ベースII『古典文法10題ドリル』 + a
 むず〇
 むず〇
 むず〇
 むず〇
 むず〇

テキスト掲載問題より

▼助動詞「むず」に傍線を引き、その活用形を答えなさい。

2 「(私は)人手にかからば自害をせむずれば」

5 「いかやうにてか、おはしまさむずる」

▼助動詞「じ」に傍線を引き、その文法的意味を答えなさい。

7 かの矢なりとも、この鎧はよも通らじ。

止 打消推量

● p44 助動詞 9 「らむ(らん)」「けむ(けん)」

補足 現在推量か、現在の原因推量かの見分け方

傍線部は事実として確定しており、原因を推量できるので：現在の原因推量
 眼前に花散るらむ。
 傍線部は事実として未確定なので：現在推量
 冥王星に花散るらむ。

(例) 冥王星に花散るらむ。

※疑問の副詞とセットで使われるときは、現在の原因推量のことが多い。

(例) などや悲しき目を見るらむ。現在の原因推量

(例) 冬ながら空より花の散りくるは雲のあなたは春にやあるらむ

補充

「らむ」の識別
 助動詞「らむ」
 u + らむ
 e + らむ
 完了「らむ」
 未「らむ」
 止「らむ」

それ以外 + らむ
 ところで「らむ」

テキスト掲載問題より

▼助動詞「らむ」に傍線を引き、その活用形を答えなさい。

4 さだめて心もとなく思すらむ。

6 つとめては雪ぞつもらむ。動詞「もほにむ」が付いている。

● あたら夜の月と花とを同じくは心知れらむ人に見せばや 完ふりし未 + 婉曲む 体

● p46 名作に親しむ『更級日記』物語へのあこがれ (問) 助動詞を○で囲み、右横に意味を記せ。

かくのみ思ひくんじ(る)を、心もなぐさめ(と)と、心苦しがりて、母、物語などもとめて見せ給ふに、

げにおのづからなぐさみゆく。紫のゆかりを見て、続きの見(ま)ほしくおぼゆれど、人かたらひ

などもえせ(す)たれもいまだ都なれ(ぬ)ほどにてえ見つけ(ず)。いみじく心もとなく、ゆかしくおほ

ゆるままに、『この源氏の物語、一の巻よりしてみな見せ給へ』と心のうちに祈る。親の太秦に

こもり給へ(る)にも、異事なくこのことを申して、出(で)て(ま)まにこの物語見は(て)思へど見え(ず)。

いとくちをししく思ひ歎(か)るに、をば(な)る人の田舎よりのぼり(る)所にわたい(れ)ば、「いと

うつくしう生ひなり(こ)けり」など、あはれがり、めづらしがりて、かへるに、「何をか奉ら(せ)意(意)志(志) (適当)

まめまめしき物は、まさなかり(な)ゆかしくし給(ふ)なる物を奉ら(せ)とて、源氏の五十余巻、

櫃に入りながら、在中将、とほぎみ、せり河、しらら、あさうづなどいふ物語ども、一袋とり

入れて、得てかへる(こ)ちのうれしさぞいみじきや。

はしるはしるわづかに見つ、心も得(す)心もとなく思ふ源氏を、一の巻よりして、人もまじら(ず)几帳のうち(う)

ちふして、ひき出でつつ見る(こ)ち、後の位も何にかはせ(せ)。

存続

意(意)志(志)

願望

打消

打消

打消

存続

婉曲

意(意)志(志)

打消

自発

断定

存続

完了

完了

詠嘆

伝聞

意(意)志(志)

完了

意(意)志(志)

強意

推量

伝聞

意(意)志(志)

完了

意(意)志(志)

打消

打消

● p48 助動詞10 「べし」 ● p49 助動詞11 「まじ」

補足 「まじ」は「べし」の反対と覚えると楽。

テキスト掲載問題より

▼助動詞「べし」「まじ」に傍線を引き、その文法的意味を答えなさい。(とは言うものの、本にある通り、「べし」は短文中で意味を決定することが難しい)

2 先の世のこと知る(べ)からず。可能

9 家の造りやうは、夏を旨とす(べ)し。適当? 当然? 命令?

● 深き志は、この海にも劣らざる(べ)し。意(意)志(志)? 推量? 当然?

1 かがや姫(を)止むまじければ、不可能

cant